

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和4年5月24日 ~ 令和5年3月10日
調査研究事項	≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫ I. 教育課程に関すること II. 広報・相談体制の充実にに関すること VI. その他夜間中学における教育活動充実にに関すること
調査研究のねらい	<p>【東大阪市立意岐部中学校】</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <p>多様な学びに対応する教育課程の編成や指導の工夫・改善を図る。</p> <p>「教育機会確保法」の趣旨等も踏まえ「学び直し」生徒の入学も認めていることから、様々な生徒(高齢の義務教育未修了者、10代から70代の「学び直し」生徒、日本語理解の十分でない外国にルーツのある生徒など)が入学し学んでいる。日本語指導の必要な生徒への学習カリキュラム、「おとなの中学生」の学びに適したカリキュラムの研究を進める。生徒の状況を的確に把握し、生徒支援方法・方策の工夫と改善を進めつつ、多様なニーズに応じた「夜間中学の学び」とは何かを明らかにしていく。</p> <p>II. 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <p>本校夜間学級は2019年4月に市の中央部に新設された。2019年度末から新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い様々な制約がかかり、対面でのつながりが難しい中で、夜間学級を広く市民に周知する方策や「夜間中学の学び」を必要としている人への周知と相談体制の構築を図る。</p> <p>その際、日本語理解の厳しい人を対象に通訳者を配した相談会を開催する。</p> <p>VI. その他夜間中学における教育活動充実にに関すること</p> <p>意岐部中学校ブロック小中の児童生徒との交流や意岐部フィエスタでの発表を行い、夜間中学の豊かな学びを追及する。</p> <p>2019年度から毎年、夜間学級の生徒が「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」を受験し隣接する大阪府立布施北高等学校に進学していることから、10代の外国人生徒の進学保</p>

障、追指導の研究をすすめる。また生徒の母語対応の充実を図る。

【東大阪市立布施中学校】

I. 教育課程に関すること

10代後半から80代の幅広い年代の8か国の生徒（令和3年度実績）が在籍し共に学んでいる。日本語の習熟度が十分ではない生徒が多数を占め、高齢の義務教育未修了生徒も在籍する。また、不登校を経験し、形式的に義務教育を修了した30代以下の生徒が増加傾向にある。生徒のニーズも多種多様で、高等学校への進学を希望する生徒も増えてきている。

これらの状況を踏まえて、丁寧に一人ひとりの生徒の状況を把握し常に学習支援の方法を工夫・改善していくことを大切にする。日本語指導の必要な生徒への学習カリキュラムやおとなの中学生に適したカリキュラムの研究を進め、生徒に寄り添った夜間中学での「個別最適化された学び」を創造する。

II. 広報・相談体制の充実に関すること

ここ2年間、コロナ禍による制限があり、本来は地域に広く発信した中での学習発表会や芸術鑑賞会などが実施できていない。今後はホームページや学校内外の掲示板を利用し、学習活動の様子や生徒募集の案内など、積極的に地域にアピールする。意岐部中学校夜間学級と合同開催する行事について、市内各所にチラシやポスターを設置して広く市民に周知する。また、夜間中学で学びたい人への相談体制を構築する。

VI. 夜間中学における教育活動充実に関すること

生徒に一人一台割り当てられているiPadを積極的に活用する。授業で活用するだけでなく、生徒自身が生活上の重要な情報を収集するツールとして効果的に利用できるよう、日常的に支援を行う。また、コロナ禍において対面で実施することが困難な、他の夜間中学や小中学校との交流について、ICTを活用して実施することで生徒の豊かな学びにつなげたい。

各都道府県における夜間中学新設の動きが活発になる中、近畿の夜間中学をはじめ、全国の夜間中学との交流を重ね、日常の教育活動や行事について活性化を図る。

調査研究の成果

【東大阪市立意岐部中学校】

新型コロナウイルス感染拡大は一進一退ではあるが、コロナ前に行われていた行事も規模を縮小しつつ実施することができ、その中で工夫して調査研究をすすめてきた。

I. 教育課程に関すること

- ・校内研修会、教科研究会、授業研究会の開催を定例化し毎月1回実施し、使用した教材を共有するとともに、振り返りを行った。また生徒の情報交換も定期的に行い、生徒の実態をつかむためのアンケートの内容検討も行った。
- ・布施中学校夜間学級との合同研修では、毎年の夏季1日合同研修や定期的な研修だけでなく、双方の授業見学の機会を設け、夜間中学に求められる「学び」について研究・研修を進めることができた。
- ・近畿夜間中学校連絡協議会の各教科部会へ毎月参加し、教材研究を行い、日々の授業に活用した。
- ・夜間中学の新しい「カリキュラム」を研究・検討し、特に各教科のねらいなどを具体化するとともに、今年度試行的に実践した。今後振り返りを行う。

II. 広報・相談体制の充実に関すること

- ・9月に開催した「開級50年ひがしおおさか夜間中学校祭り」において、夜間中学の存在が各方面にひろがるように、市内のリージョンセンターだけでなく、文化創造館や公民連携を活用し市内の大型商業施設にも広報依頼をした。また、市のSNSやケーブルテレビでも広報し、広範囲にわたって夜間中学をアピールすることができた。また、生徒募集のチラシ配りを生徒と教職員が共に行うことができた。
- ・昨年度よりホームページでの発信回数を増やし、内容を工夫した。ホームページの二次元バーコードを生徒募集のチラシや、職員の名刺、作文集などさまざまな場所に掲載した。
- ・通訳を配した生活相談会を学期に1度実施し、日常生活や学校生活についての相談に回答した。

VI. その他夜間中学における教育活動充実に関すること

- ・日本語理解の十分でない外国籍生徒の学びを保障していくため、母語対応の充実や日本語指導の効果的な方策を研究した。中国

人講師や日本語支援指導員の専門的な日本語指導や多言語翻訳機の使用による補助など、生徒に母語で対応することができ、生徒の安心感や学習理解、進学意欲につながった。

- ・全国各地に夜間中学が新設されている状況から、全国夜間中学校研究大会を通して、近畿をはじめとして全国の夜間中学との交流や情報交換を積み重ねている。
- ・意岐部中学校ブロックの小中学校との交流・発信として「意岐部フィエスタ」に出演した。また、「夜間中学校祭り」では昼間の生徒（吹奏楽部）に出演依頼をし交流したり、意岐部フィエスタでは一緒に舞台発表をするなど、今後につながる関わりが持てた。
- ・府立布施高等学校定時制や、府立布施北高校の担当の先生を招いて進路学習会を開催するなど、連携を深めた。
- ・生徒一人ひとりが自身の生き立ちを振り返り、夜間中学で学ぶ思いや願いを、自らの文字で作文集にして発表し、学びの原点や誇りを持って生きることについて顧みる機会となった。

【東大阪市立布施中学校】

I. 教育課程に関すること

- ・定期的に教科ごとの研究や生徒についての情報共有や理解を深める研修を実施し、生徒の実態に応じた教育活動を展開することができた。特に、高校進学を考える生徒が増加する中、生徒一人ひとりの進路希望について丁寧に聞き取り、支援につなげることができた。
- ・近畿夜間中学校連絡協議会の各教科部会や委員会に毎月参加し、教材研究や情報共有を行うことができた。
- ・意岐部中学校夜間学級と授業交流期間を定め、お互いの授業を見学し合う機会をもつことができた。また、合同研修会も行い、東大阪市の夜間中学として成果や課題を共有することができた。

II. 広報・相談体制の充実に関すること

- ・今年は東大阪市の夜間中学が開級し50年とあって、「夜間中学校まつり」を盛大に開催した。その際に、ポスターやチラシを使って公共施設をはじめ市内各所で広報に努めた。
- ・日々の教育活動や行事の様子をホームページを使って発信した。

- ・夜間中学に入学を希望される方について、通訳を含めて丁寧に対応することができた。

VI. 夜間中学における教育活動充実に関すること

- ・ICTを活用した授業や学習活動について校内研修を行い、iPadを使ったAIドリルでの学習を進めることができた。
- ・校内研修や意岐部中学校夜間学級との合同研修、また近畿夜間学級連絡協議会の各教科部会などで実践交流をすることができた。
- ・日本語の習熟が十分でない生徒が安心して学ぶことができる環境を作るため、日本語指導支援員と協力し、日本語指導を充実させることができた。授業の抽出指導、授業前、放課後の指導を、日本語の習熟度に応じて行うことができた。また、生徒の実態とめざす日本語能力に応じた教材を作成した。
- ・日常生活において非常災害時の情報の受け取り方や、避難の方法などについて危機管理室職員から講話を受け、携帯電話での情報収集の仕方などを丁寧に指導することができた。
- ・生徒一人ひとりが自身の生き立ちを振り返り、夜間中学で学ぶ思いや願いを、自らの文字で作文集にして発表することができた。
- ・『日本の伝統文化に親しもう』のテーマのもと芸術鑑賞を行った。日本舞踊を鑑賞したり、時代劇の立ち回りを体験することを通して夜間学級で大切にしている、互いを知り、違いを認め合う気持ちを深めることができた。